

平成14年10月27日（日）

第28回 越谷市民まつり

越谷市郷土研究会
展示出品紹介

「戦後の中学生の田植実習」

高崎 力



うはっきゅう
「鳥八白の石仏」

加藤 幸一

鶺鴒

戦後の中学生の田植実習

高崎 力

昭和二十二年（一九四七）、義務教育六三制が施行され、中学校の職業科は農業・商業・工業の選択制となり、ほとんどの農村部では農業を選択した。

選択農業は生徒から喜ばれなかったが、多くの生徒が農家出身だったので疑問をもたなかった。

学校には、田畑それぞれ一反（九九二平方メートル）ぐらいの実習地を所有または借地して、畑では蔬菜・豆類・甘薯・蕎麥・小麦、田では糯米（もちこめ）が多く栽培された。そして秋の収穫期には、会食会を開いて喜ばれた。

この頃は、農業が無く、いろいろな生物がいたが、稲の害虫が早苗の葉裏に生み付けた「卵取り」、夜間は蛍光灯で虫を集めて石油の受け皿に落として殺虫す

る「錆鍔灯」が夏の風物詩であった。また、秋には、大量に発生し成長するイナゴを全校挙げて捕捉し、茹（ゆ）でて販売したお金で学校教材を購入した。

写真は、昭和二十九年六月三十日の桜井村立桜井中学校（現在の桜井小学校敷地内）の田植実習風景である。男子は苗間から早苗を運んで田に撒（ま）き、モンペやブルマー姿の女子が田植えをしている。遠景の木立は上間久里の集落である。また、もう一枚の写真には、田植えをしている女子の後ろで苗を投げる男子生徒が写っている。

現在、この水田の近くには児童館コスモスが建っている。戦争中には間久里防空監視所があって兵隊さんが一個分隊駐在していた所でもあった。

中学生の田植実習（現在の児童館コスモス付近）

昭和29年（1954）6月30日に撮影（高崎 力）



鳥八白の石仏

加藤 三十一

「鳥八白」とは

越谷に「鳥八白（うはっきやう）」という印が刻まれた墓塔（墓石）が多く見られる。「鳥八白」とは、石仏愛好家の間で呼ばれている名称である。『鳥（鳥）』と『八』と『白（白）』の三つの字からなり、これは、「鳥」や「鶴」「鶴」「鶴」などの印であるという。この印は墓塔の表面上部に刻まれ、室町末頃より江戸時代中頃までの主に曹洞宗の墓塔に全国的に見られたという。立正大学の久保常晴氏によると臨済（臨済）附羅尼の中の「瑟鷗布羅耶紗質」の「瑟鷗（成就 吉祥）」と訳される（から由来するとしている。その他にもさまざまな説があって、いまだにはっきりしていない。

市内での「鳥八白」の例としては、特に多いのが曹洞宗の野島の浄山寺の墓地である。郷土史家の中村守氏（岩槻市日の出町二一四〇）の調査結果によると、何と四十六墓もある。その他に曹洞宗の増林の勝林寺の墓地などにも見られる。

次にあげる「鳥八白」の墓塔は、「鳥八白」が文中に組み込まれている例である。『鶴』は一鳥が物をついばむ」という意味がある。つまり『鶴』の印は、「鳥八白」といわずに「鳥八白」（ちやうはっきやう）というべきだったのである。

『鶴』は、屍を林の中に捨て、鳥に鶴（ついで）まぎて空に帰るとの意味で用いたとの説がある。この説によれば、この文は「涼屋松影信女の為に鶴（ついで）む」と読む。「鳥八白」は印や記号ではなく、文字（漢字）であろうことを示している。

以上から私見ではあるが、「鳥八白」は印や記号では決してなく、「鶴」という字であると想われるので、名称は「鶴（ついで）」と呼ぶべきであると想うのである。

鶴為涼屋松影信女



中島家「小菅川二六六」そば共同墓地

「小曾川の烏八白」

烏八白うはちまじの墓塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 小曾川・中島家（小曾川二六六）そば共同墓地

共同墓地内の西側にある中島家（小曾川二三三―一）の墓所

石塔型式 舟型（東南東向き・高さは）

年 号 元禄十一年（一六九八）

「正面」

鴿為涼屋松影信女

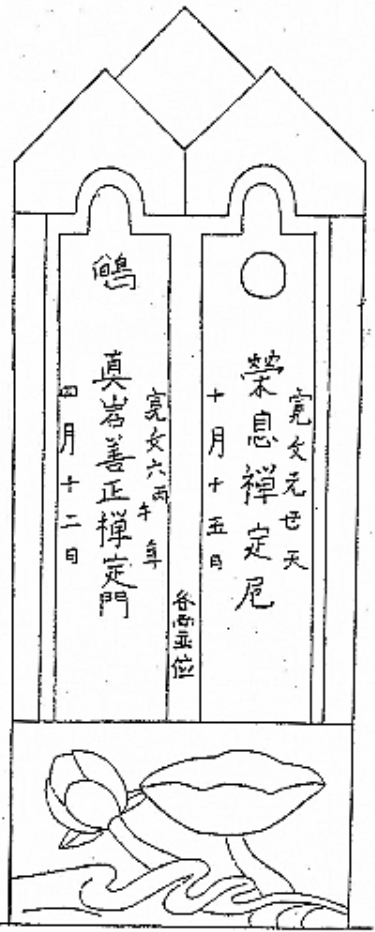
卍（智拳印の大日如来座像）

中 鴿
正直氏

元禄十一賞季八月十日

次に、参考までに増林の勝林寺にある烏八白を図版で紹介する。

「増林の勝林寺の烏八白」



「応順禪定尼の為に鴿（ついで）む菩提也」

「野島の浄山寺の鳥八白」

この浄山寺の墓地には、墓塔の表面上部に「魯」「鶴」「鶴」

などと刻まれた「鳥八白(うはっきゅう)」と呼ばれる墓塔が多く見られる。次は、郷土史家の中村守氏(岩槻市日の出町二一四〇)による浄山寺墓地の調査結果をもとに再調査し整理したものである。「鳥八白」が何と四十六基も大量に見つかっている。かつては、浄山寺周辺の曹洞宗信徒の間で「鳥八白」を墓塔に刻み入れる信仰が行われていたことがわかる。

〔I〕川島長治家

1. 寛文 六(一六六六) 舟型地藏立像 「白浪武隣禅定門」
2. 寛文十三(一六七三) 舟型如意輪座像 「本室了源禅定尼」
3. 元禄 二(一六八九) 舟型観音立像 「桂室良影禅定尼」

〔II〕武井しげ家

4. 貞享 五(一六八八) 舟型地藏立像 「久蔵玄永信士」

〔III〕高野冲右衛門家

5. 寛文 九(一六六九) 板碑型 「雪貞妙紅禅定尼」
6. 延宝 七(一六七九) 板碑型 「心翁浄安禅定門」
7. 元禄 四(一六九二) 舟型阿弥陀立像 「転環□逕信士」

〔IV〕齊藤弥三郎家

8. 寛永十八(一六四一) 板碑型 「妙香禅定尼」

〔V〕染谷初太郎家

9. 寛文十二(一六七二) 板碑型 「妙通禅定尼」

〔VI〕川島トシ家

10. 元禄 四(一六九一) 板碑連碑型 「華陽浄心禅定門」

〔VII〕有縁仏(一般的には「無縁仏」と呼ぶ)の墓所

※E、W、S、Nはそれぞれ東西南北を、番号は上から段数と向かって右からの列数を表している。

11. 元禄 五(一六九二) 舟型地藏立像 「機蔵□密禅定門」 W 01-02
12. 寛文十三(一六七三) 舟型地藏立像 「道□」 W 02-04
13. 元禄十五(一七〇二) 舟型地藏立像 「鉄□禅定門」 W 03-10
14. 寛文 四(一六六四) 板碑型 「妙縁禅定尼」 W 03-11
15. 宝永 四(一七〇七) 舟型如意輪像 「清空浄珍禅定尼」 W 05-02

46	寶曆九(一七五九)	隅丸角型	「秋外涼先信士」	S	08	12
45	正保四(一六四七)	板碑型	「道繁禪定門」	S	07	07
44	寬文八(一六六八)	板碑型	「涼薰禪定尼」	S	04	01
43	明曆三(一六五七)	板碑連碑型	「妙正禪定尼」	S	03	01
42	貞享四(一六八七)	板碑型	「江山寒貞禪定門」	S	02	02
41	承応二(一六五三)	板碑型	「涼室妙清禪定尼」	S	01	02
40	明和六(一七六九)	隅丸角型	「誠屋妙諦信女」	E	01	06
39	寶曆十三(一七六三)	隅丸角型	「金嶽敲門信女」	E	01	02
38	慶安四(一六五一)	板碑連碑型	「施主関根次良兵衛」	N	06	14
37	明曆二(一六五六)	板碑型	「風信妙高禪定尼」	N	06	13
36	正徳五(一七一五)	隅丸角型	「龍淵道跳信士」	N	05	04
35	元禄十三(一七〇〇)	板碑連碑型	「瑞應淨祥禪定門」	N	03	07
34	延宝六(一六七八)	板碑型	「帰一天霜道禪定門」	N	03	06
33	元禄四(一六九一)	板碑連碑型	「	N	03	05
32	寬文六(一六六六)	舟型	「妙線信女」	N	03	04
31	延宝四(一六七六)	駒型	「北貞郷音信信女」	N	02	05
30	延宝五(一六七七)	板碑型	「帰一仲」	N	02	03
29	延宝三(一六七五)	板碑連碑型	「妙圓禪定尼」	N	02	02
28	元禄十二(一六九九)	板碑連碑型	「春岳妙天信女」	N	01	04
27	延宝七(一六七九)	板碑連碑型	「施主関根次良兵衛」	N	01	02
26	明和三(一七六六)	隅丸角型	「義山鳳節法師」	W	13	19
25	元禄八(一六九五)	板碑型	「葉山荷北信男」	W	12	21
24	寬文九(一六六九)	板碑連碑型	「春慶禪定門」	W	12	19
23	万治二(一六五九)	板碑連碑型	「月照詠江禪定尼」	W	12	17
22	寬文八(一六六八)	板碑型	「妙圓禪定尼」	W	12	06
21	元禄八(一六九五)	板碑型	「林葱禪定尼」	W	09	15
20	元禄十三(一七〇〇)	舟型地藏立像	「妙葉童女」	W	09	07
19	元禄五(一六九二)	隅丸角型	「登級禪定尼」	W	09	01
18	正徳四(一七一四)	舟型弥陀立像	「雲山道耕禪定門」	W	08	05
17	正徳五(一七一五)	聖護如意輪座像	「清雲流水禪定尼」	W	08	03
16	寬文十一(一六七二)	舟型弥陀立像	「傳光座主善」	W	05	03